

令和 7 年度第 1 回
浦安市総合教育会議
議事録

浦安市 企画部 企画政策課

令和 7 年度第 1 回浦安市総合教育会議

概要

1. 開催日時 令和 7 年 10 月 2 日（木）午後 4 時 30 分～午後 5 時 30 分

2. 開催場所 文化会館 3 階 大会議室

3. 出席者

（委員）

内田市長、船橋教育長、宮道教育委員、吉野教育委員、影山教育委員、佐藤教育委員

（事務局）

教育総務部長、教育総務部次長、教育総務課長、学務課長、生涯学習部長、

生涯学習部次長、生涯学習課長、市民経済部長、市民経済部次長、地域振興課長、

企画部長、企画部次長、企画政策課長、企画政策課副主幹（司会）

4. 議題 学校と地域コミュニティのあり方について

5. 議事の概要

（1）開会

（2）市長挨拶

（3）学校と地域コミュニティのあり方について

学校と地域コミュニティのあり方について、事務局より説明を行い、各委員が意見を述べた後、意見交換を行った。

（4）閉会

6. 会議経過

司 会： 本日は、皆様大変お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまより令和 7 年度第 1 回浦安市総合教育会議を開催いたします。会議の開催に当たり、内田市長よりご挨拶がございます。

市 長： 総合教育会議の開催にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。教育委員の皆様におかれましては、日頃より本市教育行政にご尽力いただき、感謝申し上げます。

また、大変お忙しい中、会議にご出席いただき、重ねて御礼申し上げます。

さて、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校運営において学校と地域が目標やビジョンを共有し、連携を図っていくこと

が重要になってきております。

そこで、本市では、令和6年度より学校と保護者、地域が連携・協力して学校運営を行う「コミュニティ・スクール」を公立の全小・中学校で導入したところで

す。

本日は、学校と地域コミュニティのあり方について、教育委員の皆様から、忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司 会： ありがとうございます。それでは、本日の議事に入ります。ここからの議事進行は、内田市長にお願いします。

市 長： 本日の議題は、学校と地域コミュニティのあり方についてです。本日の議事の進め方は、初めに、事務局より議題に関して説明をさせていただき、その後、委員の皆様から広くご意見を頂戴したいと考えております。それでは、事務局よりご説明いたします。

企画政策課長： それでは、事務局より説明させていただきます。

資料1-1「学校と地域コミュニティのあり方について」をご覧ください。

まず初めに、本市のこれまでの人口推移と、令和6年度に実施しました人口推計の結果についてご説明いたします。

年齢別人口の区分の傾向としましては、これまで増加傾向にありましたグラフの上部の高齢者人口が今後は更に加速していくこと、また高齢者人口と同じく増加傾向にありましたグラフの一番多い区分の15歳～64歳の生産年齢人口が今後はゆるやかに減少に転じていくこと、逆にこれまで減少傾向にありましたグラフの一番下の部分の15歳未満の年少人口が今後は横ばいで推移していくこととなっております。

つづいて、学校と地域の基本的な考え方をご覧ください

本市では、令和元年12月に策定した総合計画の中で、「より市民に信頼され開かれた学校となるよう、保護者や地域の方々の意見を幅広く聞きながら、学校、家庭及び地域との連携による学校づくりを推進する」と位置付けています。

また、令和7年3月に策定した学校教育推進計画においては、「子どもたちの生活・成長のあらゆる場面で子どもを見守り、子どもたちを支えていくために、学

校・家庭・地域・行政が、それぞれの立場から連携し、地域ぐるみで子どもを育む仕組みづくりを進める」と位置付け、学校教育と家庭・地域が密接に関わっていくことを推進しており、令和6年度よりコミュニティ・スクールを市内全ての公立小・中学校で実施いたしました。

つづいて、コミュニティ・スクールをどのように活用していくかをご覧ください。本市における令和6年度のコミュニティ・スクールの取り組みの一例として、防災・防犯に関し、避難所運営マニュアルの確認・見直しの共有や自治会との合同防災訓練などを実施いたしました。

なお、別資料とはなりますが、参考資料1－1として令和6年度のコミュニティ・スクールの主な活動内容などについてまとめておりますので、本日の議論におけるご参考にしていただければと思います。

つづいて、浦安市の地域コミュニティの担い手をご覧ください

コミュニティ・スクールの目的の一つとして、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていく役割を明確化することが挙げられており、地域等による学校支援に関する総合的な企画・立案を行い、地域等の連携・協力を促進していく仕組みを構築していくことが求められています。

そのような中、地域には、コミュニティの担い手として学校を中心に活動しているPTAの他、自治会や老人クラブ、子ども会など様々な主体が地域活動を行い、地域の課題解決に取り組んでいる状況となっています。

つづいて、学校と地域の関わり方をご覧ください。

学校と地域の関わり方について、学校は、子どもたちの学びの場、居場所であるほか、地域の中にある核となる施設、地域住民の災害時の避難所であり、教員や子どもたち、地域住民や事業所など多種多様な人たちの連携により、市民のこれまで培った豊富な経験や知見の高さをいかし、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを推進することができます。

一方、地域につきましては、高齢化が進展する中、自らの経験や知見を子どもたちに継承し、将来の地域コミュニティの担い手を育成することが出来ます。学校と地域コミュニティの担い手が、密接に連携・協力していくことで、より強固な地域活動の原動力となり、さらなる人と人とのつながりを生み、顔の見える関係を創出することができます。その関係の強化は、今後の新たな学校の運営や地域

コミュニティの更なる連携を生み、大きな相乗的効果を生み出していくものと期待されます。

本日の会議におきましては、地域コミュニティとの連携について、どのようにコミュニティ・スクールを推進していくかにつきまして、皆様の立場からご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

市長：事務局から説明をさせていただきましたが、本市におきましては、コミュニティ・スクールを導入しております。これが本来の意図に沿ったものなのも含めて、皆様とご議論できればと思っております。

まず、意見交換のテーマとして、地域に開かれた学校として、学校は何ができるのか、また地域は学校に対して何ができるのかについて、ご意見をいただければと思います。

学校を地域に開いていくという考え方は、実はここ数年の話ではなく以前からありました。

本市で申し上げますと、明海小学校の開校時にはフェンスのない学校として、地域の方がもっと自由に出入りしてもらおう。そのような開かれた学校を全国でつくろうという機運がありました。ただ残念ながら、ある事件を機に、学校に誰でも入れるというのはいかがなものかというような議論がおこりました。それを今一度、地域との連携や地域の人材、地域の人との交流をもう一度やっていこうという機運が高まってきたと考えております。

そのような中で導入したコミュニティ・スクールですので、教育委員の皆様方には、地域に開かれた学校とするためには、学校あるいは地域が何をできるのかということについて、ご意見をいただければと思います。

初めに教育長お願いいたします。

教育長：地域に開かれた学校ということで、今市長からございました通りでこれは相当前から叫ばれています。

私も教頭や校長の時から、あるいは学級担任の時から、地域に開かれた学校に取り組んできたところですが、その時は物理的にも地域の方々が自由に出入りするといったことが地域に開かれた学校というようなイメージがあったかもしれません。

ですが、私が今考える地域に開かれた学校というのは、地域と学校とがそれぞれ

の課題を共有しながら共にそれぞれの課題解決に向けて取り組んでいくということだと考えています。これまでは情報を積極的に学校から提供していくという、ひとつの方向性だけで地域に開かれた学校というのが進められていましたが、ベクトルが相互に向くようなイメージをもっています。

具体的には、地域の課題に対して学校が取り組んでいく、あるいは学校の課題に対して地域の力を借りるというように、相互で取り組むことが、地域に開かれた学校であり、学校と地域がそれぞれできることだと考えています。

市長： 教育長からは、双方向の情報の共有、あるいは学校と地域の課題を共有していくことが必要であり、一方通行になりがちなものを、お互いのベクトルを確認し合いながらやっていくことが大切だというようなお話がございました。

続きまして宮道委員お願いいたします。

宮道委員： 私はコミュニティ・スクールにおいて地域と学校の繋がりを深めていく中でいいますと、いかに形式的にならないか、形骸化しないかといったことを考えないといけないと考えています。実のあるものとして進めていく上では、例えば、学校と地域が共通の目的を決めて取り組んでいくことが重要だと思います。

私自身の経験を振り返りますと、ちょうど浦安市立小中学校 PTA 連絡協議会の会長を務めていた時が 2011 年でしたが、東日本大震災が発生しました。そういった意味ではこの浦安という地理的なところを考えると、参考資料にも書かれているのですが、防災や防犯マップを一緒に作る、避難所の運営マニュアルを学校と一緒に作るといったことについては、もっと緊密に連絡を取り合いながら、子どもも巻き込むような形で進めていくことを、学校と地域の方々と連携しながらできるといいと思います。

あとは、この参考資料でも清掃活動が実績として書かれています。これは非常にいいことだと思っています。私たちも大学生の部活動において、日頃のお礼として自治会の清掃活動と一緒に取り組んだことがありました。そのような形で、子どもたちが地域に出ていくことは、1 つの切り口としては、非常にいいものであり、これを進めていただくと実のあるものになると思います。

市長： 宮道委員からは、共通のテーマを取り上げ、子どもたちが地域に出ていく活動をもっと進めるべきじゃないかというようなご意見でございました。

続きまして吉野委員お願いいたします。

吉野委員： 今までおっしゃられたように、私はやっぱり双方向での活動が重要だと思います。

最近子どもを中心に考えると、親力がないという時代になってきていると思います。

ですから、地域が一丸となり子どもをみんなで育てていくというような環境になると、子どもの教育にもいいと思います。特に核家族である家庭には、様々な人と交流できるような環境にしてあげたいなと思います。

また、地域では高齢者が増えていますので、学校が地域に出て様々な経験をしたり、清掃や社会活動に触れたりというのも非常にいいことだと思いますし、できることから少しずつ実施していくことが必要だと思います。

市長： 吉野委員からは、浦安市の特徴として核家族が多く、転入してきた時から核家族という中で、高齢化が進んでおり、もっといろんな人が地域にいるということを理解する意味も含めて交流をすることが必要だというご意見でございました。

続きまして影山委員お願いいたします。

影山委員： 児童や生徒が地域に出ていき、様々な年代の人と交流することは、学力だけでなく、生きる力を作るうえで重要だと思います。

また、地域にとっても、学校に入っていき活動するということは、コミュニティを育成するうえで有効なことだと思います。

そういった意味で、コミュニティ・スクールは積極的に進めていくべきだと考えているのですが、コミュニティ・スクールでなければできないことは意外と少ないのかなと感じています。

例えば、コミュニティ・スクールで行っている主な活動内容を見ますと、学校によっては、キャリア教育や読み聞かせ、地域の見回りなどをおやじの会あるいはPTAが主体となって実施しているところがたくさんあります。そのような意味でもオーバーラップがないようにコミュニティ・スクールが何をすべきかを整理しなければいけないと感じています。

一方で、学校といういい器があるということですから、今あるPTAやおやじの会をいかしつつ、足りない部分をコミュニティ・スクールが担っていけばいいと考えています。

また、学校活動などが活発なところは、コミュニティ・スクールとしての役割は裏方になってくるかもしれないですし、逆に活発でないところは、積極的にコミ

コミュニティ・スクールが出てきて、活発にしていければいいと思いました。

市長： 影山委員からは、コミュニティ・スクールでしかできないことやすでに地域が実施していることを整理をした上で、コミュニティ・スクールのあり方をもう一度考えていくべきである。地域ができないことや、実施していないことであれば、コミュニティ・スクールがやるべきだといったご意見をいただきました。

また、コミュニティ・スクールを画一的ではなく、地域の実情に応じて柔軟に実施すべきではないかといったご意見をいただいたところです。

続きまして佐藤委員お願いいたします。

佐藤委員： 私は、学校が地域を支えて、地域が学校を支えるような取組を行い、地域の課題解決もできたらいいと思います。

学校という箱をうまく利用し、これから増えていくシニア世代の方が、これから浦安を背負っていく子どもたちに様々なことを伝えていけるようにできたらいいと思っています。

学校が、地域で何が起きているかをきちんと把握したうえで、地域のために汗をかくことが必要であると思います。そうすることで最終的には、自分たちがどのような地域に住んでいるかなどを改めて理解できると思いますし、それを次の世代に伝えていくといういいサイクルになるのではと思っています。

市長： 佐藤委員からは、学校という箱をもっと上手く利用して、学校が地域に降りていく、あるいは地域が学校にもっと寄り添ったほうがいいのではないかというご意見をいただいたところです。

学校が地域を支え、地域が学校を支える。そのような中で私が思うところとして、今の浦安市の状況を申し上げますと、1,000 人規模の大規模の学校もあり、100 人規模の小規模な学校があります。さらには高齢化率が 40%以上の地域と、10%未満の地区があります。そのような様々な状況に立地している学校としては、地域が学校に対してアプローチすることも、学校が地域にアプローチすることも、手法が違ってくるとしています。

それでは、今までのご意見を踏まえて、学校が地域の中核となるために、何ができるのかということをもう少し掘り下げてみたいと思いますので、ご意見をいただければと思います。

初めに教育長お願いいたします。

教 育 長： まず前提としては、学校が地域づくりの中核になるという姿勢を学校がしっかりと持つことが大切であると考えています。

また、教育委員会としては、子どもが地域の担い手であることを共通理解しながら、学校は何ができるかということについて明確にし、地域の課題は学校の課題としてとらえていくことが必要と考えております。

そのような中、先日、中学校と小学校に訪問したところ、ある小学校が、コミュニティ・スクールルームを作っていました。その部屋に案内され、ホワイトボードを見たときに、学校の課題と地域の課題が書いてありました。

学校の課題は割と少なかったのですが、地域の課題がたくさん書かれており、地域の課題の方が多いのだとまず思いました。

その中で、地域の課題の1つに、高齢者の方々がなかなか家から出てくる機会がないということが、地域の課題としてあり、学校地域連携運営協議会の中でできることを話し合った結果、コミュニティ・スクールルームを学校に作り、いつでも高齢者の方々が学校に来られるようにしたとのことですが、なかなかうまくいかないという話があり、また次の学校地域連携運営協議会の中で、そこから何ができるかを、学校が中心となり考えていきたいというような話がありました。このような姿勢こそが1つの地域づくりの中核となるということであると思いました。

また、学校地域連携運営協議会の構成委員は多くの団体により構成されていますので、学校地域連携運営協議会が核となり、様々な方たちを上手く結ぶことも地域のためにできることだと思っています。

様々な活動をコミュニティ・スクールの中で結んでいき、子どもたちの健やかな成長も目的の1つとして、地域の活性化というところでも、学校が中核となり進めていくことが、コミュニティ・スクールの機能をいかすということだと思いました。

先ほど画一的にならないようにというご意見がありましたが、私が例を挙げさせていただいた件は、その学校の中学校区の課題であり、それぞれ中学校区ごとに地域の課題、学校の課題は異なるため、しっかりと話し合った上で、学校が中核となって団体の方々と、それぞれの活動を結びながら進めていくことが、今後コミュニティ・スクールに求められることであると考えております。

市 長： 教育長からは、子どもが地域の担い手であり、地域の課題は学校の課題というこ

とでご意見がありました。

コミュニティ・スクールルームが、なかなかうまくいかない理由はどのようなものがあると考えていますか。例えば足腰が元気ではない方は、距離がある場所にはなかなか行かないと思いますが。

教育長いかがでしょうか。

教 育 長： 学校としては、靴箱も作り、交流の場として自由に出入りできる部屋としての環境を整えているところです。次の学校地域連携運営協議会の中で、その理由について考えていくということだと思います。

吉野委員： 学校に居場所を作ったとしても、元気な高齢者もなかなか行かないと思います。

また、子どもは地域の担い手に将来なるので、そのためにはどうしたらいいかという前提で考えますと、例えば、学校の先生や塾の先生をしていた方でしたら、子どもたちに教えることがうまいと思いますので、そのような方に学校に来ていただき教えていただくという取り組みができればいいと思います。

市 長： 高齢者の方の立場で考えてみますと、例えば音楽の先生からピアノを、虫が好きな先生からカブトムシの育て方を教えてもらえるなど、高齢者に魅力のあるものでないと行かないと思います。その魅力をまず学校で作るべきだと思います。

影山委員はいかがですか。

影山委員： 教育長がおっしゃるように学校に高齢者を呼び込みたいという気持ちもよく分かります。そのような方々が子どもと交流し、お互い面白いものを見つけてくれれば、何かのきっかけになるのではないかと感じています。

ただ、市長がおっしゃるように高齢者の方にとって魅力がなければ行かないというのはその通りだと思いますので、学校で何か役に立つことをしたい方がいれば、学校が活躍の場になればいいのではと思いました。

市 長： 佐藤委員はいかがですか。

佐藤委員： 私は高齢者の方が学校に行く理由を作らなければいけないと思いました。

1人であるのが寂しいですとか、みんなで何かをしたいと思っている方は、学校に行く方はいると思うのですが、別に1人でもいいと思っている方や、足腰が元気でない方は行かないと思います。

どちらもあっていいと思いますが、学校に行くことで人と繋がり、人生の生きがいを見つけられるといいなと思います。

市長： 佐藤委員のご意見でもありましたように、例えば、これまでの人生の中で挑戦できなかったことがあった場合、それを学校が提供すれば行くと思います。

例えば子どもの頃からピアノやバイオリンを習いたかったですとか、あるいは将棋がもっとうまくなりたいですとか、高齢者が行く理由をもっとつくることによって、地域の資源が学校に入ってくるのではないかと思います。

宮道委員はいかがですか。

宮道委員： 高齢者の方も自分が役に立つと思えることがあれば外に出やすいと思います。浦安市もこれから高齢化が進み、学校やエリアによって状況は異なりますが、一番避けたいのは孤独や孤立状況に追い込むことだと思います。

学校に来てくれないのであれば、最初は学校側から行くことも重要だと思います。そこから、清掃活動や地域文化祭の実施などを考えていったらいいと思います。

あとは、学校地域連携運営協議会の中に自治会や老人クラブの方も入っているのであれば、曜日や時間を設定して地域の方々に来ていただき、自治会や老人クラブが抱えている課題などを伺い、それを子どもたちと一緒に考えてみるというような取り組みをできないかと、お聞きしていて思いました。

また、PTAの活動として子どもの見守りがあると思うのですが、これから高齢者が増えていくと、今度は認知症で徘徊する人たちも増えてくると思うので、顔見知りの関係を様々な形で作る中で、子どもだけではなく保護者の方や地域の方にも、高齢者の方を目配せできるような、そんな意識をつけていく必要があると思います。

最後に、学校で難しければ公民館ですとか、そのような社会教育施設を間に入れて、社会教育と学校教育で考えることも非常に重要なことだと思います。

吉野委員： 高齢者の話ばかりになってしまっていますが、いろいろな方が学校に来てくれるにはどうしたらよいかといった話かと思います。

今は、子どもの保護者でさえ、保護者会の時しか学校に行かずに、マンションの隣の人も、もしかしたら知らないような世の中だと思います。

ですので、学校が年齢を問わず行きやすい環境にすることで、様々なことが実現していくと考えています。

宮道委員： 地域のすべての方と顔見知りの関係を作る必要があると考えています。そのことに対して学校として貢献できる役割があり、子どもたちも地域にはいろいろな方

がいるということを知りながら、地域の中で自分が何をできるかや、将来したいことを考えることも、1つの教育だと思いますので、そこにも繋がるのではないかと思います。

市長： 皆様、様々なご意見ありがとうございました。

最後の意見交換のテーマとして、コミュニティ・スクールを通じ、地域住民や地域資源と学校がどのように連携していく必要があるのかについて、ご意見をいただければと思います。

初めに教育長お願いいたします。

教育長： 浦安市は地域住民や地域資源をいかした活動がとても活発だと思います。

先ほど、影山委員からありました通り、地域活動とオーバーラップしないようにとのご意見が出るぐらいPTAが中心となった活動や自治会が中心となった活動が地域の中で行われています。そこに学校が関わっていくということが大切だと思います。

また、地域には様々な特技や技能をお持ちの方々がいらっしゃるので、そうした方々にご協力いただくことで、子どもたちの教育活動も充実します。一貫して申し上げたいのはWin-Winの関係で、コミュニティ・スクールが中心となり、様々な地域の活動をつないで行けたら、オーバーラップという課題も解決できるのではないかと考えています。

市長： 教育長からは、Win-Winの関係で学校が関わっていくことが最初の切り口であり、そこからコミュニティ・スクールを広めていくべきではないかというご意見をいただきました。

続きまして宮道委員お願いいたします。

宮道委員： 日の出地区はお父さんの会などの活動は活発ではありますが、それぞれのエリアで状況が違うと思いますので、今行っていることを整理したうえで、次のステップとして、どのようなことができるのかを考えていけばいいと思います。

やはり、できることから少しずつ一緒に行っていき、学校ごとに判断していけばいいと思います。例えば、時間を決めて、学校を使える時間を作り、そこに地域の方にゲストティーチャーとして来てもらうということも、今後は考えていくといいと思いました。

市長： 宮道委員からは、今できることから実施し、次のステップとしていろいろなこと

に挑戦していくべきだというご意見をいただきました。

続きまして吉野委員お願いいたします。

吉野委員： 地域住民にコミュニティ・スクールといってもわからないと思いますので、言葉ではなく形で見せていくべきだと思います。

例えば地方の運動会であれば、家族だけでなく高齢者や保育園児等、地域全体が参加しています。

ですので、言葉先行ではなく、運動会であれば近所の方が参加できる種目を入れて実施することや、学芸会などに地域の方に来ていただくことでもいいのではないかと考えています。

市長： 吉野委員からは、コミュニティ・スクールの形として、地域の人が参加できるような運動会や文化祭といった取り組みをさらに実施していくべきではないかというご意見をいただきました。

続きまして影山委員お願いします。

影山委員： 吉野委員のご意見でありました運動会の件ですが、アイデアとしてはこれからもぜひ考えていくべきだと思います。運動会や文化祭は参加したい人がそれなりにいると思いますので、実施する価値はあると思います。

地域資源をどのように活用するかというところですが、コミュニティ・スクールとして、ゼロからイチを作ろうとするとおそらく大変ですので、今あるものを繋ぎ合わせていき、そこから今ないものを探していければいいと思います。例えばPTAや自治会でできないことはなにか、そのようなものを見つけていければいいと思います。今ないものとしては、卒業生と卒業生の保護者はコミュニティからも離れがちですし、保護者も子どもたちが学校に行かなかったら離れていくので、そのような方たちに学校に入っていただくと、コミュニティというものを知ることができて楽しいだろうし、学校側からも信頼があり、仕事を任せやすく、かつコミュニティ・スクールの価値は上がってくると考えています。

一方でコミュニティ・スクールの問題点として、まず予算がないというのが大きいと思います。これは、何をすべきかコミュニティ・スクールで考えた上で、予算を考えていくべきかと思っています。

あとは、PTAやおやじの会はたくさん会員がいるので、その会員の方に声をかけ手伝ってもらい、意思疎通や情報共有ができていますが、コミュニティ・スク

ールは実行部隊が全くなく、コーディネーション的な役割に限られてきますので、先ほど出ておりましたつなぎ合わせるコーディネーションが一番重要だと思います。

市長： 影山委員からは、今あるものをつなぎ合わせ、無いものを探す作業をした上で、コミュニティ・スクールのコーディネーション的な機能について注目してさらに活用すべきではないかというご意見をいただきました。

続きまして佐藤委員お願いします。

佐藤委員： 吉野委員のご意見でもありましたとおり、参加型の運動会ができたらいいと思いました。いろいろな世代の人たちも関わりながら、アメリカの大学のスポーツのように、地元のメンバーと一緒にスポーツを通じた活動をできればいいと思います。

また、全国的にこの街の幸福度が数値化されているのであれば、そこから今後の活動について何か分かたりするのではないかと思います。

市長： 全国的な幸福度は数値化されておられません。私としては、今後どのようなになったら浦安市は幸福になるのか、市民の皆さんに幸福と思ってもらえるか、子どもたちが幸福になるのかということを、みんなで考えていくことが大事だと思っておりま

す。

現在、市民が浦安市のどこに誇りを持っているのかについて調査などを行う、シビックプライド推進事業という取り組みを行っています。例えば、姫路市民であれば自分たちのアイデンティティの象徴として姫路城があります。浦安市は面白い調査結果が出ていまして、ディズニーなど特定の事柄ではなく「何となく浦安がいい」という結果が出ています。

これは、佐藤委員のご意見でありました幸福度に繋がるのではないかと考えておりまして、海や山、城、テーマパークがあって素晴らしいではなく、何となくいい。これは、市政運営を担当するものとして最高の誉め言葉だと思っております。

また、特に学校と地域の関わりというよりも、子どもたちに対する取り組みとして、避難所運営マニュアルの確認と見直しがあります。災害がいつ起こるか分からない状況の中、昼間に地域にいる子どもたちに、地域の担い手として、防災の様々な知識を学んでいただくということで、中学2年生を対象に、避難所の設営の訓練に取り組んでおります。そのようなことを学んでいくだけで、地域の中での

人材育成にも繋がりますし、その他様々な地域連携に関する事業を行っております。

それでは、もう間もなく時間となりますので、まとめさせていただきますと、地域の課題を学校の課題としてとらえる、あるいは学校の課題を地域の課題としてとらえる。お互いに魅力的なものがあり、まずは顔の見える関係というものを作っていくことが、地域コミュニティの中で重要であり、その核となれるのは私も教育委員会も含めて、学校であると思っておりますので、皆さんからは引き続き学校と子どもたちのためにご意見等いただければと思っております。

それでは最後に事務局からお願いいたします。

司 会： 事務局より 1 点ご連絡がございまして、本日の議事録につきましては、後日各委員の皆様にご確認についてご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上となります。

市 長： 本当に貴重なご意見いただきました。

今日ご紹介できなかったのですが、北九州市が面白い取り組みをしています。公民館を中心に、自治会などとの連携で地域の協議会を作り、公民館に補助金を出しています。そこから公民館が各活動に補助金を割り振るといった取り組みを実施しており、こういったものができていければ、コミュニティ・スクールの可能性も広がっていくと考えております。

それでは、以上をもちまして、浦安市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

午後 5 時 30 分 閉会